



発行所
陵水会名古屋支部
〒460-0002
名古屋市中区丸の内2丁目20-25
メットライフ名古屋丸の内ビル9階
(株)アルファコンサルティング内
(代表取締役 牧野博和方)
TEL 052-223-2011
発行責任者 片岡嘉幸 (大25)
印刷所 (株)山菊
☎052-731-1525(代)

支部長あいさつ



片岡嘉幸氏 (大25)

名古屋支部長の片岡です。新型コロナウイルスの影響で世情は混乱していますが、いかがお過ごしでしょうか。日頃より支部活動への変わらぬご支援、ご協力を賜り御礼申し上げます。昨年六月の総会では百八十名の会員の皆様をお迎えし、盛会裏に懇親会を終了することができました。本年は産経新聞社長飯塚浩彦氏(大29)を講師に招き、六月二十七日(土)に総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス騒動が解決する見込みがないため中止としました。昨今の目まぐるしい社会・経済情勢の面白い話をお聞かせいた

だけのものと期待していましたが、誠に残念な結果となりました。

総会は開催できませんでした。が、当支部では伝統ある行事から新しい行事まで様々な活動をしております。その内容は昨年リニューアルしましたホームページで、活動紹介や参加募集をしております。八十二回を数えるゴルフコンペ、八年目を迎えた学生とのOB交流会、二十回を数える陵水亭懇話会、不動産部会、ヤング陵水会等です。今年はメーカー部会、IT部会の立ち上げを目論んでおります。学生とのOB交流会は、昨年は大阪支部、今年は京都支部で行われると聞いており、他支部への展開が進んでいます。

と言われます。経済学部の前身「彦根高商」は建学の精神として士魂商才を掲げ、近江商人の伝統を継承し、洪沢栄一に負けない実業家を輩出してきました。第十九回の陵水亭懇話会で、大学院博士課程で「彦根高商」を研究している今井綾乃さん(大29)が「哲学と文学史を必修科目にしていた唯一の高商である」と語り、士魂商才教育の一端を垣間見た気がしました。全国初のデータサイエンス学部は来年初めて卒業生を輩出します。卒業生がどのような活躍をするかが注目される場所ですが、士魂商才の経済学部といかに結束させるかが、大学の命題であろうと推測します。



2019年度陵水会名古屋支部総会

彦根高商は1923年四月に第一回入学式を行いました。また、もなく百周年を迎えます。陵水会ではこの百周年を機に、耐震基準が満たなく閉鎖中の陵水会館のリニューアル工事を行います。広く寄付を募り、寄付いただいた方のネームプレートを示す計画であります。同じく耐震基準の満たなかった講堂は、昨年十月から全体がジャッキアップされていて、このほど着地しました。内装工事を終え六月

2019年度

陵水会名古屋支部総会開催

2019年6月22日(土)

昨年の名古屋支部総会は、6月22(土)11時半より開催されました。会場のルブラ王山「飛翔の間」には、老若男女合わせ、た後、「物故者への黙祷」が捧げられました。昨年度総会以降に名古屋支部へ連絡が入った26名の方のお名前は、会場入り口に揭示されていきました。

には完成すると聞いています。まいりますので、ご支援いただき、今後も皆様のご意見をお聞きします。大学と陵水会を盛り立てて



支部長 片岡嘉幸氏 (大25)

ス部と現役生OB交流会、11／02・03大学祭へ来訪の呼びかけ、ホームページの充実を企画している等々が語られました。続いて、大学学長の位田隆一氏より「学長挨拶」として母校の近況をお話いただきました。総会議事は、滞りなく進行しました。審議事項…「平成30年度収支報告書(案)」「支部役員・本部役員改選」。報告事項…「平成30年度支部活動報告」「2019年度収支予算案の報告(案)」。

※新役員…副幹事長・堀洋一(大31)氏、土屋敦史(大57)氏。今回の改選は一部退任される方があったため、任期期限は他の役員と同じです。

加えて今回は、只今水会にて準備中の100年史編纂について、その計画と原稿募集が倉

坪和久氏(大12)より紹介されました。

「閉会のことば」が発せられると、若干の準備時間を経て『講演会』となりました。『学生とともに半世紀を過ごして』ラグビーワールドカップを迎えるにあたりこれまでを振り返る『と題して、滋賀大学名誉教授 滋賀大学ラグビー部総監督の三神憲一氏より、50年に渡る思い出を、ラグビーワールドカップの話題を交えてお話いただきました。

会場準備のため全員一旦退席して戻ったあとは、いよいよ『懇親会』。まず最初に、滋賀大学経済学部長・田中英明氏より来賓挨拶をいただきました。経済学部の現況や「アエラの記事の正しい読み方」等をお話いただきました。続いて、滋賀大学DS学部長・竹村彰通氏より、DS学部の現況として、この3年間に渡る歩み等をお話いただきました。乾杯の発声では、水会理事長の小梶清司氏(大18)より、水会会員数等のお話をいただきました。

ご挨拶とやかな乾杯が済んだあとは、しばしの歓談・会食タイムへ。ゲストには滋賀大

学チアダンス部「Sugaris」の皆さんをお迎えして、「ハロー」などの4曲をご披露いただきました。軽快なリズムやスローテンポの音楽に乗った鮮やかな踊りは、狭い舞台を上手く使いながらの素敵な演技でした。

恒例の「大合唱」で琵琶湖周航歌を3番まで通したあとは、来年度への総会幹事引き継ぎが執り行われ、副支部長の米澤正治氏(大25)の挨拶で中締めとなりました。

この日は、10時から『第7回現役&OB交流会』も同日開催されていました。就職支援として名古屋支部が現役生(三回生)へ企画するこのプログラムでは、38名の現役生と16名のOB OGが交流しました。現役生の就活のお役に立てたことを願うばかりです。

32回生の総会幹事の皆さん、一年間お疲れ様でした。総会司会は、棚橋紗夕(大62)さんと波多野有紀(大66)さんでした。ありがとうございました。

■「学長挨拶」

滋賀大学創立70周年について。戦後の1949年、全国で新制大学が設立されたのは5月31日。今年の6月1日には、



上段左より、滋賀大学学長 位田隆一氏、滋賀大学名誉教授 滋賀大学ラグビー部総監督三神憲一氏、下段左より、滋賀大学経済学部長 田中英明氏、滋賀大学DS学部長 竹村彰通氏、水会理事長 小梶清司氏 (大18)

その70周年記念式典を琵琶湖ホテルにて開催。同時に、大学院DS研究科の設置記念式典も行われた。この日の午前中には、海外の6つの大学(滋賀大学と連携協定結んでいる)から代表をお招きして、国際フォーラムを開催。「未来の大学の形」と

いうことで、それぞれの国において大学は危機的な状況にあり、いろいろな取り組みをしていて、お互いに協力・参考にして前に進んでいきたい、という話に。午後からは、記念式典に続き、金出武雄先生(カーネギーメロン大学ワイタカー冠全学教

授)の記念講演、祝賀会(300人超)が催された。

データサイエンス研究科大学院修士課程開設について。今年、大学院研究科の修士課程を開設できたのは、企業からの要望もあり、文科省へ申請して認められ2年前倒しでDS大学院を作ったという経緯。来年は1年前倒しで博士後期課程を作る計画もある。一貫したDS教育・研究を、滋賀大が核となつてできることになる。また、1年前に文科省から出されたH29年度滋賀大学業務実績評価は「特筆すべき」という極めて高いものだった(日本中の国立大学で3つしか付けられなかった)。

■「講演会」

彦根高商から継承されている校風、土着の文化、彦根の環境は、世代を超えて続いている。彦根で面接を受け、球技全般を教えられる新卒の教師として採用された。S44(1969)年4月1日に体育の助手として赴任。当時から、滋賀大は教員と学生の距離感がとても感じ良く、ゼミも先生のご自宅であったり。学生は、勉強だけでなく人格も学んだ。

昔から、体育大学ではないか

と思えるほど運動が盛んだった。高商時代のOBの皆さんの活躍で、全国レベル部活が沢山あった。しかし、そんな中でも廃部の危機を迎えた部活はいくつもあり、ラグビー部も例外ではなかった。ラグビーワールドカップの予想の話が続いたあと・学生とOBの関係が薄れてきていることを指摘された。

■経済学部長「来賓挨拶」

「アエラの記事の正しい読み方」。記事には、この(2019年)春の滋賀大への志願者が1,145人も増えた。第2位の大分大学志願者数も1,077人増えたと書いてある。数字的には接近している人数だが、実は大分大学は昨年の志願者が850人減っており、今年の1,077人はその反動(受験界ではよくあること)。滋賀大の昨年の志願者は120人減っていたが、2年前と比べても今年は1,000人以上増えている(これは今までの受験界の常識では考えられないこと)。しかも、1,145人のうち1,000名は経済学部への志願者増加であった。試験監督には総動員で対応した。

DS学部が大成功して「文理

融合」を掲げた滋賀大の名前は全国に轟いているが、それを受けた高校生は、滋賀大はどの県にもある(県名を冠した)大学ではなく、全国的にも意義のある大学であると認識。滋賀大のポジションは大きく変わっている、例えば、講堂(学生が日ごろ使う教室でもないシンボリックな建物)の改修工事に3億円に近い金額が国から出たことから明らかである。

記事では「それにしても、滋賀県彦根市という全国的にはマナーな地にありながら、北海道や鹿児島などからも学生を引き付ける滋賀大の強みは何なのか。」という文脈がある。もともと滋賀大は全国から優秀な学生を集め、全国で活躍している大学。そのもともとの強みの上で、DS学部誕生に至っている。しかし、大学の生き残りには成功したが、経済学部が生き残れるかどうか危ういのは残念ながら続いている。

我々が手に入れたのは、文理融合という新しい領域。DSという領域が切実に必要とされている多くは経済・経営の領域。必要な人材は、経済学部にも求められている。その実現に

向けて我々は、日本で一番優れた人たちとすでに取り組み始めている。滋賀大は間もなく(彦根高商以来)100周年を迎えるが、また次の100年も日本を牽引する経済学部であれと、背中を押していただきたい。

■DS学部長「来賓挨拶」

陵水会名古屋支部とトヨタ陵水会への御礼から始まり、教員の説明へ。34名のうち11名が外部資金(企業連携による寄付金)による期限付き雇用であること。3年前に赴任した頃は、こちらから一日何社か企業を回りながら企業との連携を求めているが、(陵水会の)コネクションを活かしていただいたおかげもあり、外部資金の教員は2年前の2名から今年は11名を得られるまでになった。企業からの問い合わせは今も多い。国も「AI人材を育成しなさい」と全国の大学へ向けて働きかけており、滋賀大は一番目立っていて期待もされている。文科省に頼らなくても外部資金を得ているという自助努力の姿勢は大きく評価されている。

■陵水会理事長「乾杯の挨拶」

陵水会会員は全国に(ご存命の方)約28,500名、この

10年間で約5,000名増えた。このまま推移すると、4年後に迎える2023年の滋賀大・彦根高商創立100周年の時には、軽く30,000名を超えそう。これから20年くらいは、毎年400~500名ずつ増えるのではないかと。滋賀大は今や乗りに乗っており、自分はヨット部だったが、こういう場合を「順風満帆」あるいは「フォローウインドを充分に受けて」と言うこと。しかし、会員数が増えるだけでは意味はなく、実際の活動を伴わないと更なる発展は望めない。陵水会を挙げて滋賀大を応援していきたいので、これからも益々のご支援をお願いします。

全ての記事の全文は、陵水会名古屋支部ホームページでご覧いただけます。



陵水亭懇話会

第18回陵水亭懇話会

8月23日(金)に第18回陵水亭懇話会が開催されました。会場の太閤本店伏見店には、17名が集いました。

【演題】『来る100年と次の100年に向けて―彦根高商の日々を知る―』

其の壱「その始まりをめぐって」この彦根高商の始まりはいつだったのか?

講演者(今井綾乃、大58・院



彦根高商「調査課」の風景

41) 自己紹介。彦根高商の研究や100年史に携わっている。

誰も今まで見たことがなくて見捨てられたような資料でも、自分が研究することによって蘇ってくることに心が惹かれていく。そのため、一度就職はしたものの退職して、今日の研究に至っている。

○前置きとして

まずは、彦根高商の正式名称は「官立彦根高等商業学校」であり「100年史を大学で作成する例はあるが同窓会で作成することは珍しい」ことから話が

始まりました。「文部省直轄の官立高等商業学校は13あり、彦根はその9番目」「高商を母体とする今の大学には、陵水会と同じく当時から続く同窓会があり、高商時代からの場所や風景を表した名前が付いている」という件には、歴史の長さや時代背景を思わず想像!「会費が集まらない、年報を発行しても読んでも貰えない」という各同窓会の苦労話や、その対策として「就

職支援をしようと同窓会が大学に関わっている」という情報には、(どこも同じなんだなあと)参加者の皆さんも一様に頷いていました。

○経済経営研究所

次に、滋賀大の経済経営研究所に話が及びました。彦根高商の「調査課」という組織が何度も名称を変えながら、今に至るのだそうです。この「調査課」の仕事は一貫して、書籍やポスター、地図等を集めて学生や先生のために貸し出すことであったため、資料整理を担当した今日の経済経営研究所の方々は、沢山の資料が残されていることに大変驚いたそうです。

■彦根高商の始まりはいつだったのか?

今回のテーマに正解はなく、「歴史をどのように描きたいか?」という目的によって変わっていく。として、次の3つの例を挙げられました。[1]1923年4月/第1回入学式。[2]1922年10月/勅令第441号「高商を彦根に設置する」。

○学校史

学校史には「彦根による5つの運動(作戦)」が載っている

した。[1]高商の設置は、蒲生郡以北七郡のいずれか(ということにしておいて)。[2]50名の委員(彦根の有力者)が寄付金集めに回る。[3]委員が在阪実業家を説得する(成功した近江商人を訪ねる)。[4]犬上郡内有力者による政友会へ鞍替え(当時の政治的な思惑でしょうか)。

[5]彦根が寄附金48万円と敷地1万6000坪を提供する。今だから言えますが、ドラマのような展開ですね。

―学校史の情報を引き継ぎつつ、新しく発見された資料から判ったこと。

1)彦根に決定されたのはいつか?。京都日出新聞(現在の京都新聞)によると「前日の9日、文部省が滋賀県知事を介して、彦根に内定したことを発表した(1919年2月10日付記事)」、この新聞を信じるなら、彦根高商の始まりは1912年2月9日とも言えそうとか。

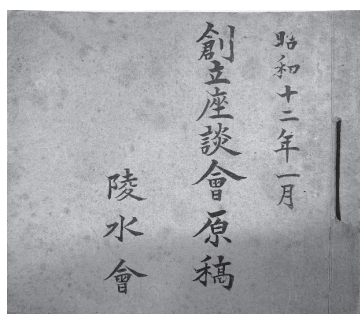
2)敷地の候補地について。学校史には、千鳥ヶ丘(現在の県大(旧県短))と中島町(現在地)の2か所しか載っていないが、京都日出新聞には「当初10か所以上の候補地が挙

がったものの、住民の反対により3か所に絞られた」という記述があったそうです。

3)寄附金について。学校史には「寄附金48万円を集めたことが彦根の成功要因」「1万円(現在価値約500万円)以上の寄附者26名の名前を記載」「『近江実業新聞1920年11月7日付』には寄附者全

ての名前を記載されている」。そして「奔走尽力した有志と逡巡することなく犠牲を払った地方民衆の存在があった」と結んでいるが、民衆の実態には触れていない。「民衆が払った犠牲」を探したところ「近江実業新聞(1920年11月7日付)」に記事があり「記載された寄附者は238名で、金額は48万円ではなく約44万円(現在価値約2億2000万円)だった」「有力者26名による寄附金は全体の約75%にあたる」「残りの25%は彦根の地域住民102名の寄附になる」「(学校史には書かれていないが)住民の中には女性の名前もあり、ひとり約100円(現在価値約5万円)寄附している」。

4)学校史について。誘致運動



『創立座談会原稿』は彦根高商創立に関する唯一の資料

の典拠となったと思われる資料『創立座談会原稿』が、陵水会館で発見された。これは、彦根高商創立15周年を記念して、当時を回顧する座談会が開かれ、創立関係者や彦根の町長さんたちが話した内容を議事録としたもの。創立をめぐる資料は、これが唯一の存在。

——他にも

ヘレンケラーの直筆サインがあったり、大学の有名な先生や新聞社の主筆を招いて、講堂で講演会を開催したり、彦根高商は図書が多いことで有名だったり、実情は判りませんが、地域の教育に貢献しようと志していたことは想像に難くありません。

■気になる就職は？

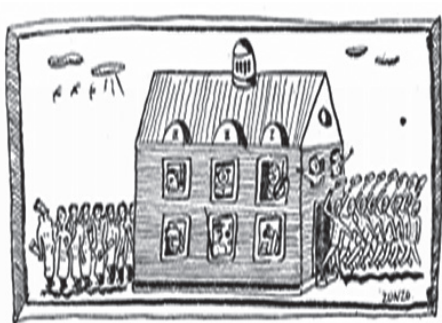
本科3、138名卒業生の出身地と就職先の割合を出してみ

ると今とあまり変わらないように見受けられるとか。出身地…滋賀(22.9)・大阪(9.4)・京都(8.5)・愛知(8.0)。就職先…(11.0)・愛知(11.0)・滋賀(5.3)。但し、地元率を調べると、他の高商では約6割が地元だが彦根は少ない。就職先も中京・関西圏に挟まれているためか地元は低い傾向。つまり、学生は全国から集まり全国へ散る様相なので、彦根に良い印象を残して学生を送り出したのではないかと。昔から同じなのですね、有り難い限りです。

○最後に

私たちの大学の原点が、「企業」の有力者だけではなく地域の
人々の力によって誕生した」とこ
とが判れば、「滋賀大学を今の
場所から（簡単に）移動させよ
う」とか「滋賀大学経済学部を
なくそう」という発想には簡単
には至らないと思う。そして、
今後の時代変遷次第では、同窓
会でその歴史を受け継ぐことが
大切になり、そのひとつの方法
に百年史の意義があると考えて
いる、と結んで終了となりました。
（其の壺…完）。

記・横井隆幸（大33）



或る行進曲

「彦根高商学報」第54号より

※彦根高商の文芸部が作成した学校新聞から抜粋

第19回 陵水亭懇話会

11月23日(土) 19時より、第19回陵水亭懇話会が開催されました。会場の太閤本店伏見店には、22名が集いました。

【演題】『来る100年と次の100年に向けて——彦根高商の日々を知る——』

について」優秀なサラリーマンを養成するため
に学校が行ったこと

■教育をめぐる…本課過程

このイラストは、右から学生帽を持った集団が、彦根高商の講堂に入っていく、1年・2年・3年と講堂で過ごし、講堂

を出ると、紳士服を来た集団になる。紳士服を着るということ
は、生徒がサラリーマンになる
ということを意味している。生
徒がサラリーマンとなるため、
彦根高商がどのような教育をし
ていたのが、今回のテーマ。
特に、彦根高商のカリキュラム
から、彦根高商独自の特徴を導
き出してみる。

授業の様子は次の通り。――1週間で開講された時間数が学科目ごとに示されている」「2学期制で、1年生の間は商業出身

者と中学出身者で、時間数が異なる」「学科目をみると、商業の専門科目の他に、国語や数学、理化学などの普通科目もある」

「表の学科目のほかに、選択科目制度があった」「選択科目は、3年生の各学期に2科目ずつ履修できた」「選択科目には哲学概論、文化史、商品実験、教育学、火災保険、鉄道論等が用意されていた」「第2外国語は、英語、独逸語、仏蘭西語、支那語、露西亜語から選択することができた」「生徒の選択を

1928年の学校新聞からみると、独逸語が最も多く、中国語が他と比べて少ないことがわかる。

○カリキュラムの改定
カリキュラムは、彦根高商が
開校していた間に5回改定され
た。このうち、1937年度の

[illegible]

改定では開講当時より科目が細分化され、時代に応じて、彦根高商は海外貿易や工業経営を意識した学科目を展開していった様子がわかる。カリキュラムの表は、『学校一覧』という資料から抜粋。学校一覧は、戦前の教育機関が1年に1度、自分の学校の校則や生徒数、時間割等の基礎的情報をまとめて発行していたもの。彦根高商の学校一覧はすべて現在も滋賀大学に残っている。実際の時間割表（1942年度）が残っていた。教官の名前の名字に続けて、学科目名が書かれている。例えば、月々土曜日まで最長7限まであったことや、本科の3クラスと東亜科という4クラスの合同授業が多かったこともわかる。この時間割表は、陵水会館から前回紹介した受験票と一緒に出てきたので、受験生に学校案内として配布されていたと思われる。

彦根高商のカリキュラムの特徴他に11ある高商のカリキュラムと比較した結果判ったこと。彦根高商は1926年度から必修科目として「哲学概論」と「文化史」を開講して以降、一貫して継続して必修科目としてそれ

ら2つの学科目を開講していた。他の高商は、選択科目設定はあったが必修科目開講は1つもなかった。1942年度以降、各高商は戦時体制の影響でどの高商もほぼ同じカリキュラムを展開するようになるが、そうした中でも、彦根高商だけは哲学と文化史を開講していた。その特徴は志望理由にもなったように、『陵水60年史』という同窓会誌には昭和5年卒業の生徒が「教職にあった父は三、四の高商から学則を取り寄せ、彦根だけに『哲学』があることを発見し、彦根高商の受験を希望したと綴っている。なぜ彦根高商がその2科目を必修科目として展開したのか、その答えが直接記された資料は残っていない。

○必修科目とした理由

「哲学概論」と「文化史」を必修科目とした理由を、資料が残っている彦根高商の初代校長と2代目校長の発言や著書から推察する。

校長の教育方針／初代校長・中村健一郎氏の「人格至上主義（充分の人格を養成したい）」。2代目校長・矢野貫城氏の「商業人は人生観が高尚で、国家に對して奉仕する念が強く、つま

り、人が出来て居らねばならず」、商業教育機関では「直接必要な学科目の他、人格の基礎を与へる為に必要な学科目を授けなければならぬ」。

教官や生徒からの声／石川興二教官（経済哲学者）が四綱領を発表。偏職業教育主義に反して人格教育又は文化教育を重ずること、西洋心酔に反して日本精神及東洋精神の自覚自重に努むること、注入主義の教育に反して能力主義の教育を重ずること、画一教育主義に反して自由教育主義を出来る限り取り容れること。

彦根高商が人格養成を重視した背景／人格養成は、全国の高等教育機関での方針。ただし、彦根高商が先行。また「教養が低いために外国との貿易において国民に悪い影響を与えたことがあった」「商人は、教養に通じて居ることが極めて望ましいことであり、又思想豊富であつて外国文化の価値を見分ける識見があるといふことが必要」等、生徒が良いサラリーマンになれるよう人格の養成に力を入れたことがわかる。

地縁／彦根は「近江商人の揺籃の地であり、琵琶湖を望め

ば中江藤樹を、城山を望めば井伊直弼を偲ぶ地である」。彦根高商がこのような「人心ニ及ボス感化ハ蓋シ量ルベカラザル」場所に位置しているからこそ人格養成を重視するのであり、彦根という場所が心が満たされるような感覚になるのは、今も昔も同じであったことがわかる。

○基礎的な内容

彦根高商が開講した哲学概論と文化史の内容は、年度をまたいでもほとんど変わらず基礎的な内容。彦根高商では、基礎的な内容が人格の養成になるという方針であったと考えられる。

「哲学概論」（1930年度）…形而上学ノ概念／帰納法ト演繹法／唯心論・唯物論／一元論・多元論・因果論。「文化史」（1930年度）…古代ニ於ケル

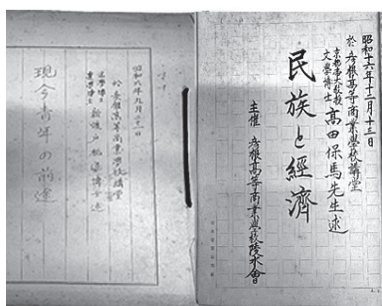
農業及土地制度／工業ノ勃興／市／莊園／座／外国貿易／商業資本主義／工業資本主義／金融資本主義。

○特別講義

哲学や文化史の他に「特別講義」もあった。彦根高商の人格養成は哲学や文化史だけに反映されたわけではなく、様々な教育活動の軸になっており、「特別講義」（学者や実業界での著名人を彦根高商に呼んで講演を行ってもらう）という学科目も開講していた。特別講義は、他に2つの高商でも開講されていた。陵水会には講演録が残っていた（新渡戸稲造、高田保馬）。彦根高商は著名人の講演を生徒に聞かせることも、生徒の人格を育てる1つと考えていた。

○人格養成

特別講義や哲学概論、文化史を通して人格養成は「士魂商才」の士魂にあたる部分の教育だといえるが、彦根高商では商才に当たる教育をめぐっても、人格養成を心がけていた可能性がある。例えば、2代目校長の本には、「商業関係の学科目と雖も、単なる職業上の知識技能を与へるのみでなく、その中に立派な人生観が含まれてをり、それら



新渡戸稲造と高田保馬の講演録

の学科目の授業を通じて、人格陶冶を行ふと云ふことに意を用いることは非常に重要」であると記されている。具体的には、簿記の練習をするにも、ただ記帳の仕方を教えるのではなく、正確さや几帳面さ、敏速や綺麗に仕上げるという能力を養った、商業地理では観察力や推理力、判断力を養う工夫をしなければならぬ。とあります。

彦根高商が実施した、手を動かす学科目についての新聞記事が残っている。彦根の銀座などの商店で、高商生が「店頭装飾競技会」を行ったことを伝える新聞記事が残っている。写真には北川呉服店を反物で飾っている様子が写っている。全国にさがけて彦根高商では、会社や百貨店を模擬経営する授業を行い始めたことが紹介されている。電気鉄道のターミナルにおける百貨店の設立を計画するなど、かなり具体的に設定を計画していることがわかる。

○最後に

今回は彦根高商の教育をめぐって、そのカリキュラムの特徴を中心の報告でした。先に使った「土魂商才」という言葉は滋賀大学経済学部理念のな

かで使われていて、その理念というのは、『彦根高商の建学の精神であった「土魂商才」を受け継ぐこと』。実は、彦根高商の建学の精神が「土魂商才」であると直接的に記された資料や、教育方針が「土魂商才」であると記された資料は残っていないことが、ある滋賀大学の先生から指摘されている。ただ、今回みたように彦根高商では、まさに「土魂商才」が培われていたといえる。前身校で培われた土魂商才を、今後も滋賀大学経済学部が引き継いでいけるように陵水会で支えていければと思う。

どうしても変えなければならぬものには、記録をし、その



会社や百貨店を模擬経営する授業の記事

記録を残し、活用していくこと。変えてはいけないものには歴史を踏まえて発信することが、ゆくゆく、歴史のある大学や同窓会の強みになるはず。これまでの100年とこれからの100年に向け、発展のために何かお力添えいただければと思う。(其の式…完)

記：横井隆幸(大33)

感想寄稿…「彦根高商の日々を知る」というテーマで今回は

第2回。彦根高商の教育について「人格の養成」という、100年を経る今こそまさに求められている教育方針が、当時、そして第二次世界大戦の時代にも揺らぐことなく貫かれていたということがわかりました。開校からしばらくしてのち、彦根高商では1926年に「哲学概論」と「文化史」が必修科目となり、他の高商が選択科目であるのに比べて大きな特徴となりました。「人格至上主義」「人格の基礎を与えるに必要なる学科目」ということが初代、2代目校長から語られ、「自国の歴史や文化、思想などの教養を身に付ける」ことが重要であるとされました。

この「人格」の部分は、まさに今の滋賀大学経済学部へ引き継がれる「土魂商才」の「土魂」の部分と思われますが、「商才」についても「商業関係の学科目」と雖も、単なる職業上の知識技能を与えるのみでなく、人格陶冶を行ふと云うことに意を用いることは非常に重要」とされており、「人格の養成」という基本理念が教育全体に貫かれています。

第20回陵水亭懇話会

1月25日(土) 17時30分より、第20回陵水亭懇話会が開催されました。今回は開始時間を早めての開催となりましたが、会場の北京料理「百楽」名古屋店には22名が集いました。

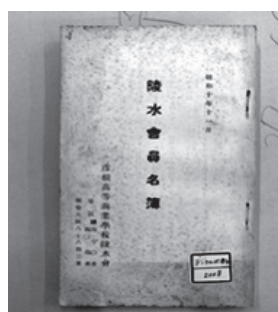
【演題】「来る100年と次の100年に向けて—彦根高商の日々を知る—」

其の参「生徒の進路動向」生徒がどのような進路を歩み、どのような企業へ就職したのか。その特徴や私たちとの連なり。

近年、各高商の就職状況が明

文科系科目より理科系科目が重要視されるような風潮、実学・実利優先、目先の成果や短期的利益の追及など、今の世はおかしな流れになっている部分があると思います。AIもIoTも使うのは人、人のためにある。そのためにも「人格をしつかり鍛え上げることが重要である、今井講師のお話を聞いて、改めてそう思いました。

記：千喜良博(大34)



陵水會員名簿

出身地	卒業時(大正15年1月)119	住所	昭和2年8月120	転居地	昭和3年10月121	転居地	昭和4年4月122	転居地	昭和5年12月123	転居地
1001	愛知 品川税務署	東京	品川税務署	東京	品川税務署	東京	横浜税務署	神奈川県	横浜税務署	神奈川県
1002	愛知 明治銀行	愛知	名古屋第1兵隊第3中隊	愛知	明治銀行		明治銀行		明治銀行	愛知
1003	山形 山形商業学校		山形商業学校	山形	山形商業学校	山形	山形商業学校	山形	山形商業学校	山形
1004	愛知 自営		自営		東陽倉庫世島支店	愛知	東陽倉庫世島支店	愛知	東陽倉庫世島支店	愛知
1005	大分				自営		自営		自営	
1006	滋賀 日本銀行京都支店	京都	九州帝国大学法文学部在学	福岡	九州帝国大学法文学部在学	福岡	九州帝国大学法文学部在学	福岡	九州帝国大学法文学部在学	福岡
1007	岡山 日本海運船	愛知	彦根市立図書館	滋賀	彦根高等商業学校	滋賀	彦根高等商業学校	滋賀	彦根高等商業学校	滋賀
1008	三重 海池銀行	大阪	海池銀行	大阪	海池銀行	大阪	海池銀行	大阪	海池銀行本支店	大阪
1009	静岡 阿都市商店	大阪	阿都市商店	大阪	又一機	大阪	又一機	大阪	又一機	大阪
1010	愛知 鈴木商店	兵庫	鈴木商店	兵庫	東陽倉庫龍川支店	愛知	東陽倉庫龍川支店	愛知	東陽倉庫龍川支店	愛知

彦根高商1回生の10名を5年間追跡した資料

この2つの資料を組み合わせる、彦根高商の本科課程を卒業した全生徒(1回生、19回生)のうち、資料がない19回生以外の生徒、総数2,984名の就職先企業が分かる。また、卒業時の就職先企業だけではなく、卒業した後の動向も1942年までは1年毎に追跡することができる。

○5年間追跡した資料

例として、彦根高商1回生の10名

る。例えば、『彦根高等商業学校一覽』(1年に1度、学校の基礎的な情報を掲載したもの)には、1926年、1934年度発行時の卒業生の勤務先が記録されている。また、『陵水会員名簿』は今も5年に1度発行されているが、彦根高商が卒業生を送り出した1927年、1942年にかけては1年毎に発行されていた。

を5年間追跡した資料がある。この10名の5年間だけでも、それぞれに就職し、就職後にそれぞれに動いていたことが分かる。

例えば、

1003番…卒業後すぐには就職できなかったが、1年後に出身地の山形で商業学校に就職した。

1006番…日本銀行に就職したにもかかわらず、翌年には九州帝大へ進学した。

1007番…日本陶器、彦根町立図書館と1年ずつ勤務した後、彦根高商の職員となる。その後、彦根高商の職員から教官となり、滋賀大学でも教官を務め、戦後は陵水会の初代理事長を務めた人物。

■卒業時の就職

こうして集めたデータを中心に、今回はひとまず卒業時の就職に着目してみる。

○高商全体の平均と彦根高商の就職率

高商を出て、サラリーマンになるというのが多くの進路だが、公務員や教員、自営業や進学をする生徒もいた。高商全体

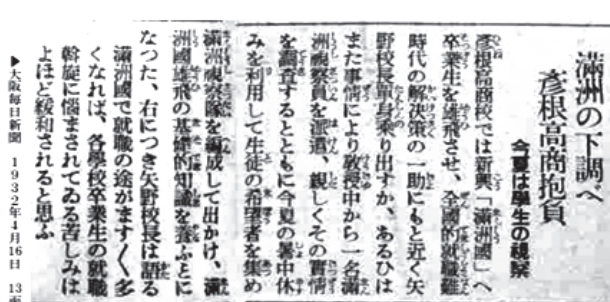
の平均と彦根高商を比較すると、彦根高商は未定が多く、官吏や自営が少なかった。彦根高商は全体より、年による増減幅が多く、特に1930年前後の就職率が低く、1932年から1935年にかけて、急に就職率が回復している。1930年前後というのは、1927年に金融恐慌、1929年に世界恐慌が起きた不況の時期。同窓会史に寄せられた生徒の回想にも、「1926年に初めて卒業生を出した彦根高商は歴史が浅く、その時期に就職難の時代に入ってしまった、なかなか就職が決まらなかった(1927年3月)」「卒業1か月前に1人しか就職が決まっていなかった(1930年3月)」ことが語られている。このことが、彦根高商の未定率を押し上げた理由の1つにあったと考えられる。

○いち早く就職率が回復した理由
—海外へ—

1930年頃の就職難からの回復は一般的に1937年といわれているが、彦根高商は1932年頃から就職率が上昇した。いち早く就職率が回復した理由は不明ながら、いくつか推察することができる。

例えば、彦根高商は就職先を国内だけではなく、海外、特に満洲まで広げようと教官が率先して動いていた。1932年の新聞報道には、「彦根高商が満洲に先生と生徒を派遣して、視察する予定である」ことが報じられた。これは、就職先を探すための視察でもあり、これ以降もアジアを回る視察が行われた。実際に1933年以降、アジア地域への就職が増加している。

—業種別の就職先傾向
全ての彦根高商生が就職した企業を業種別に、卒業年毎にま



1932年の新聞報道「満洲の下調べ」

とめると、おおむね1920年代は銀行が多く、1930年代の前半の就職難の時期は商社、就職難が明け1930年代後半になると製造が増えるように変わっている。

就職難の時期の学校新聞には、彦根高商の教官が、生徒に「この学校は近江商人のお膝元、不況といえども安心しなさい」と述べたと残っており、生徒は貿易や商社が中心である近江商人系企業へと就職した。その一方、1932年に同じ教官が、近江商人系企業は限界である。これからは工業会社である。工業知識が必要だと生徒に述べ、実際に、1932年度に彦根高商ではカリキュラム改訂が行われ、原価計算や「工業経営論」など必修化されている。

その製造も、1926年から一貫して高い割合になっているが、1920年代は東洋レーヨンなどの紡績がほとんどであり、1930年代は日立製作所などの工業に変わっていく。生徒や教官は景気や産業の盛衰に呼応したり、彦根高商という地縁をたどったりするなどして、就職率を回復していったと言えるようだ。

○実際に就職した企業名

「彦根高等商業学校一覽」より、全ての彦根高商生が就職した企業について、年代別人数の資料を作成した（上位29社まで）。この中には企業だけでなく、学校や官公吏も含めている。上位3つを挙げると、1番—（株）丸紅商店、2番—鉄道省関係、3番—高商職員や商業学校教職員、となった。※鉄道省には私鉄の名古屋鉄道や近畿鉄道なども含まれるので、今後修正する予定。

他の企業名としては、近江商人系企業が目に留まる。例えば、5番—日本生命保険（株）、9番—江商（株）、10番—東洋レーヨン（株）、18番—大同貿易（株）、24番—伊藤忠商事（株）、26番—山岡発動機・山岡内燃機（株）。また、4番—三井物産（株）や8番—三菱重工業（株）、13番—三菱銀行、21番—三菱商事などの三菱系企業は、彦根に限らず、高商生を採用する傾向にあった企業だった。

○就職に関する傾向はあったのか？

卒業年毎に上から下へ縦に人数を追うと、1926年の欄は上から1名・3名・4名と、各

企業、少人数しか採用せず、1学年150〜200名いる中で、1社への集中度が小さいことが分かる。次に横に見ていくと、例えば、1番の丸紅では、1931年からずっと継続して採用していること、他の企業も間が空くものの、おおむね継続的に採用していることが分かる。一方、27番の国際通運・日本通運（株）は最初に1名を採用して以降、間が空いて採用していることが分かる。このように、就職をめぐるのは年や企業によってかなり様子が異なると言える。

○彦根高商の就職の仕組み

年によって様々な企業に、しかも1学年に多くても2桁に届かない人数を、彦根高商はどのようにに就職させていったのか？その仕組みを、最後に見ていく。

これまで、高商がどのような仕組みで、また、企業とどのようにに繋がり、生徒を就職させていたのかは、あまり判っていない。唯一ある研究発表は、（彦根と同時時期に設立された）和歌山高商を対象としたもの。和歌山高商では就職支援課を作り、企業へ推薦する生徒をまずは学校内で選抜していたと指摘

されている。

彦根高商では学校内選抜の史料は無いが、学校新聞によって、学校と企業の間「生徒の就職を巡る流れ」や当時の状況が判った。

—学校と企業の関係

まず、彦根高商が企業へ就職依頼状を送り、ほぼ毎年、校長先生や就職担当の庶務課の先生が企業を訪問し、就職の依頼をする。その後、彦根高商生を就職させても良いという企業からのみ学校へ申込書が届く。

彦根高商の庶務課と推薦状企業からの申込書は廊下に貼り出された。生徒はそれを見て、希望する企業を彦根高商の庶務課という組織に伝えた。庶務課では、生徒が希望した企業へ校長の名前で推薦状を送り、その後、企業と生徒が初めて接触した。

—採用選考の基準

接触後、すぐ内定とはならず、面接や試験があった。この時期、どれほどの割合で採否が決まったのかは分かっていないが、おおむね性格、成績、体格や健康がチェックされたようだ。戦争が近づくにつれ次第に、性格や成績よりも体格や健康を重視して採否が決まったと言われている。

※就職難の時期、彦根高商は2,500余りの依頼状を企業に送ったにも関わらず、企業から申し込みがあったのはたった112ヶ所であった。また、校長や教官が何度も同じ企業に足を運んだ。一方、人材難の時期（景気が良くなると）は、彦根高商から早目に依頼状を送ろうとしていたけれど、それより早く企業から申し込みがあった。

○彦根高商独自の特徴

特徴を出すには他の高商生の就職と比較しなければならぬが、今回は、彦根高商が地域の力によって作られたことを踏まえ、地域への貢献という視点から特徴を掴んでみる。

先に説明したように、彦根高商生の就職先上位企業には近江商人系企業が多い。それらの企



企業から「企業」を出された「企業」の申込書を見る生徒の廊下

業には、間は空きながらも継続的に長期に渡って就職していた。それは、1930年代に彦根高商の意識が工業系会社の就職へと変わり、教官がこれから近江商人系企業は限界だと述べる中でも、変わらない様子だった。また、『入学指針』という受験希望者が読む雑誌には、彦根高商への採用申込み企業として、丸紅商店・伊藤忠商事・江商など近江商人系企業しか挙がっていない。

これらのことから、彦根高商の就職には近江商人系企業が欠かせない場所であったと言えるが、もう少し深くみてみると、近江商人系企業へ就職した生徒のほとんどが滋賀県出身であったことが判った。つまり、『滋賀県出身者』彦根高商↓近江商人系企業へ就職』というルートが築かれていた。更に、近江商人系企業へ就職した者のその後の足取りを追うと、ほとんどがそのまま勤続していた。

実は、勤続するというのは、彦根高商生の多くとは異なる様子だった。転職の様子は別の機会へ譲るが、彦根高商生が就職してから、彦根高商生が就職してからの動向を追跡すると、約6割の生徒が5年以内に転職

をし、転職をした者のうちの約半分が転職を繰り返す傾向にあった。滋賀大生の転職は今でもあるが、彦根高商当時の転職の多くは、「海外へ行く」「業種を時代に応じて変える」等、冒險的な転職と言える。

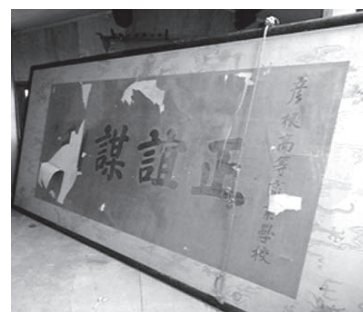
このような流動的な状況の中でも、近江商人系企業へ就職した者が勤めあげたことは、『滋賀県の青年の中から「近江商人系企業へ就職し勤めあげる者」を彦根高商が養成していた』と言える。但し、このルートの恩恵を受けた生徒は、滋賀県出身者の中でも僅かであった。1学年のうち、滋賀県出身者が占める割合は約4割。その中でも、このルートに乗れたのは約2割3割だったのである。

残る多くの生徒の就職の特徴は、今後検討する。(其の参…完)。

記：横井隆幸 (大33)

※本報告は今井綾乃「彦根高等商業学校生の修学と進路の動向」2014年度滋賀大学大学院経済学研究科博士前期課程提出修士論文を参照

感想寄稿…彦根高商の日々を知る(第三回ということ)



元中華民国大統領「黎元洪」から揮毫された書

今回は「就職をめぐる」をテーマに今井講師よりお話いただいた。冒頭、彦根高商設立の時期に、元中華民国大統領「黎元洪」が訪問されている史実には驚かされる。また、榎水会館に保存されていた書「正誼明道」の言葉の意味をお聞きすると、彦根高商の理念や、近江商人の行動哲学に通ずるものを、勝手に感じた次第です。

当時の就職状況については、年度別、業種別の進路状況や、就職者のその後の動向にまで踏み込んだ資料をご説明いただいた。当時の社会状況なのか、学生の気質を反映してなのか、転職者の多さに驚きました。また、好不況の波はどの時代でも同じですが、金融恐慌、世界恐慌の折に、他の高商に先駆けて就職率を回復させるべく学校側が努

力してきた事実や、国内にとどまらず、満州にまで就職活動エリアを拡大していたこと(今ならばグローバルと言ひ換えてもよいかもしれません)から、学校側の彦根高商というブランドにかける思い、プレゼンス向上に向けた熱意を感じとりました。

当時の就職先となる企業名や、業種別推移を見ると、就職先そのものには今と大きな変化はなく、荒波をかくぐりながら今日に至ることができたのは、学校側の努力もさることながら、就職された諸先輩方々のその業界・企業で継続的な活躍もあつてのことではないかと

思いました。

これからの百年は、文字も映像も音もすべてデータとして記録されているので100年史編集に苦労も少ないと思います。が、過去100年は残された記録や記憶から行間を読み取ったり、推測しながら事実を特定して進めなければならず、大変な活動であることと認識いたしました。講演の中で、ご依頼のあった「部誌」等について、その価値有無は今井講師に委ねるものとして一度、ソフトテニス部OBや現役部員に確認してみます。

記：丹羽宏和 (大34)

第7回現役生・OB交流会

今回で7回目となる「現役生・OB交流会」が開催されました。

【日時】2019年6月22日(土) 10:00~11:40

【場所】HOTEL プラ王山

【参加者】現役生…38名、OB・OG…16名

この「現役生・OB交流会」

は、就職支援として名古屋支部が現役生(三回生)へ企画するプログラムです。現在は、年に2回のペース(6月と2月)で開催しています。この6月開催の特徴は、現役三回生にとって初めての交流会であること、名古屋支部総会と同日開催される点にあります。就職活動の序盤期にあたるため、現役生の参加意識もまだ様々であるようです。各業種のOB・OGを紹介

(企業名・氏名) した後に各業種ブースに別れて、業界や会社の簡単なガイダンスを行い、進捗役がOB・OGに質問を投げかけて説明を続ける要領で進行了しました。現役生からも質問ありましたが、方針はまだ絞れない人から、かなり具体的な点を指摘する人まで、皆さんの不安や期待がこちらにも伝わってくるようでした。いくつもの業種を回る人、目当ての場所にてじっくり話す人、せっかくだからと希望以外のブースにも加わってみる人。限られた時間ではありますが、広範囲に渡る話を聞いたことと思います。

一部の現役生はその後、同日開催されている支部総会の「懇



第7回交流会 会場風景

親会」にもご参加いただきました。支部総会(懇親会)と同日開催される意義は、まさに様々な経験を積んだ約180名の社会人集団との邂逅にあります。現役生と新卒者のテーブルは、歓迎の意味を込めて会場中央に配置されますが、新卒者から最新の就職活動情報を、周りの年配者からはお目当ての会社の先輩を探して質問する、逞しい姿が見受けられました。一日を通じて、一般的に接することができない会社情報ではない、苦労や喜びや将来展望等々の実体験の話が、就職後の将来像を描くための貴重な体験となったことを祈るばかりです。

土曜日の朝から、多くのOB・OGにご協力いただきました。全員が現役生の応援団であることを実感する一日となりました。誠に有難うございました。次回は、2020年2月22日(土)開催です。就職活動が本格化する直前対策になります。今後とも、ご協力いただけますようお願いいたします。

記…横井隆幸(大33・学生部会)

第8回現役生・OB交流会

「現役生・OB交流会」は、今回で8回目となりました。現役生の参加人数は40名、OB・OGは20代〜現役で働く24名にご協力いただきました。換気を良くしたり、マスクを付けながらの感染症対策に配慮しながらの開催でした。

【日時】2020年2月22日(土)
13:15〜16:30

【場所】ウインクあいち9F

901号室

【参加者】交流会…70名、懇親会…35名

最初に各業種のOB・OGを紹介(企業名・氏名)した後、現役生は話を聞きたいOB・OGのところへ行き、事前に用意してきた質問などをする要領で進行了しました。インターンシッ



2019年度 第2回
名古屋水支部主催

就職相談会

第8回現役生OB交流会
大学から学生へ告知されている別途名称



新型コロナウイルスに配慮して開催

に参加している現役が昨年までよりも多かったことや、希望企業(や業界、業種)に勤める大学OB・OGと直接話せることで、よりリアルな質問をしている学生が多かったようです。「現役生」と「話をしたいOB・OG」との間を持つスタッフも有効に活動し、最後まで熱心に話をしている姿を見ることが出来ました。

今回からの新しい試みは、以下の通りです。1. 人事経験者OBコーナー、エントリリーシートOBコーナーの新設。2. 現役との話に参加しないOB同士には異業種交流の試み実施。3. 内定済みの4回生2名(長谷川君、上原君)の参加。

運営側からは、過去に交流会

参加の学生が、今度はOB側として3回生の就職支援に回ってくれる好循環を切望しておりますので、4回生二人の参加が頼もしく、今後もこの流れが続くことを期待したいと思っています。

尚、恒例の懇親会には35名(大学教授2名、現役13名、OB20名)が参加して、17:00からの2時間があつという間に終わりました。半数が2次会にも参加するほどの盛り上がりでした。今回のような交流が、今後のOB・OG同士の親睦にも繋がって欲しいと思える会でした。

土曜日の昼間から、大変多くのOB・OGにご参加いただきました。誠に有難うございました。OB・OG全員が、現役生の心強い応援団であることを改めて実感し、感謝の念に耐えません。

次回は、6月27日(土)名古屋支部総会と同日開催になります。今後、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

記…塚本浩三
(大30・学生部会)

リーダーシップ論



令和元年10月17日、人生初の大学での教鞭をとらせていただきました。自分と比べると就職環境も様変わりし、学生たちにとどこまで受け入れられるか不安でしたが、講義後の質疑応答を通じて、私自身が大きく刺激を受けました。

話のポイントとしては、永らく続いた「大量生産」「拡大経済」を前提としたピラミッド型下請構造に象徴される垂直統合型経済に求められるリーダーと、「市場縮小」「少子高齢化」が急速に進む環境下では、求められるリーダー像が大きく異なる点。そして、現環境下では、垂直統合型のヒエラルキーを無くし、

水平分業型による連合艦隊で付加価値創出のできるチームをつくることが重要であり、そこに求められるのは一人一人のタレント(才能)であり、全ての人にリーダーシップが備わっているという点。

ほとんどの学生が「何かしら特別な才能を持った、選ばれしもの」といったリーダー像を持つており、真剣なまなざしで聴講する学生も少なくなく、「どうしてそんなに熱くなれるんですか?」といった質問が出るほど、こちらもエンジンがかかってしまいました。

全てのレポートを拝読しましたが、真摯な感想に感銘し、社内にも展開させていただきました。皆さんの将来に少しでも参考になれば幸いです。

記：寺西基治(大31)



令和元年10月に、陵水協力講義「リーダーシップ論」の社外講師として、(株)デンソーからケーブルテレビ会社に出向し、設立間もない会社の足腰強化と、コミュニティFMラジオ局の立上げに尽力した事例を、約1000人の学生に紹介いたしました。

デンソー時代も含め、超多忙な時期が3回程あったが、何れも温かい先輩の眼差しがあったこと、自分としては怯まずに気分転換を図る努力をして苦難を乗り越えたこと、また人、組織を引っ張る立場になった時には、まず自分が行動を起こすこと、及びコミュニケーション能力と後工程を意識した言動の重要性をお話ししました。

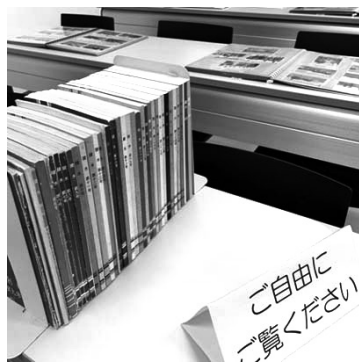
多くの学生がレポートで色々な気づきを書いていただいており、少しでもお役に立てたことを嬉しく思っています。また毎年7人の社外講師を招いての講義スタイルがここ数年定着しているようで、学生にとっては世の中の具体的な事象を学べる絶好の機会であり、今の学生が羨ましく思えるとともに、今後の飛躍を期待したい。

記：野々山徳雄(大25)

第53回滋大祭



し、教室展示を行いました。名古屋支部からは片岡支部長(大25)、林健一(大25)、今井綾乃(大58)が出展に関わりました。「陵水会ブース」を出展した主な目的は、次の3つでした。
[1] 陵水会員や現役生、地域の皆さんに陵水会の活動を周知する。
[2] 陵水会員が地域や世代を超えて交流できる場を提供する。
[3] 2023年に迎える滋賀大学経済学部と陵水会の100周年を、陵水会員や現役生、地域の皆さんに認知してもらう。



去る2019年11月2日(土)・3日(日)、第53回滋大祭に「陵水会ブース」を出展しました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。ごうございました。「陵水会ブース」の設置は、陵水会にとって初の試みです。手探りながらも、陵水会本部の若手交流委員会と100年史編纂委員会が共同

3つの目的を達成するため、私たちは来場者に陵水会のリーフレットや陵水会年報を配布し、会場の入り口に陵水会の活動案内を展示しました。また、地域の皆さんが会場へ入りやすいように、入り口付近には彦根やキャンパスの今昔写真を飾りました。会場全体には、大学1回から大学37回までの卒業アルバムの複製写真を展示するとともに、来場者がパソコンで自由に卒業アルバムの写真を見ることのできるようにしました。その他、陵水会の活動が掲載された雑誌や各支部の活動写真、かつて体育会が主催していたコン

サートパンフレットなども展示しました。

会場への来場者数は174名。来場者は展示を見ながら私たちと思い出を語り合い、自身の学生生活や彦根の風景を懐かしんでいました。この展示によって、陵水会員や地域の皆さんに陵水会の存在を知っていただけたと思います。目的はおおむね達成できたと思いますが、予想していたより現役生やOBの来場が少なかつたため、次回以降、PR方法や展示内容に工夫をしたいと思っています。

今年2020年の滋大祭にも「陵水会ブース」を出展する予定です。卒業アルバムの特集を広げ、より多くの陵水会員が当時は懐かしめるよう展示をしたと考えています。また、来場者が学生時代の思い出や展示の感想を書き残す一筆ノートを用意します。年を追うごとに、このノートが蓄積されていくことを願っています。是非、皆様お誘いあわせの上、お越しください。

記・今井綾乃（大58）

ソフトテニス部名古屋夕食会



2019年度ソフトテニス部の名古屋夕食会は、2019年7月12日（金）の午後18時30分より、名駅の「桜木商店」にて、OB18名、現役3名で行われました。まずは、昨年に引き続き最年長の早川さん（大13）の乾杯の音頭で始まり、津から参加いただいた三重支部長の森田さん（大20）、林さん（大25）からは100年史寄稿への熱い思いを語られるなど、OB全員から近況報告などで旧交を温めました。

現役からは、1、2、3回生の3名が参加し昨春秋に4部から3部への復帰の報告で盛り上がり

り、後援会費の集金のご協力に感謝するとともに、OBからの就職へのアドバイスなどもいただき交流を深めました。

最後に、現役から「9月OB総会」への参加の要請と、恒例の記念撮影し解散しました。

記・塚本浩三（大30）

建設不動産勉強会



マンションの事なら長谷工」を代表して、西山博基氏（大64）よりマンションマーケットについて講演頂きました。テーマは「西山がマンションマーケットのこれからを語る」。開催は2019年11月15日、参加者は12名講師を含む）でした。

西山氏はこの2019年4月から、同社の営業支援戦略を日々調査・立案する部署に転属しています。過去の東海圏の供

給戸数変遷の紹介では、特にリーマンショックで業界がどのような影響を受けたのか、非常に生々しい話も交えて講義頂きました。東海圏は戸建志向が強いと言われておりますが、年々マンションに住むことの魅力が一般ユーザーにも伝わってきており、その期待に応え、戸建住宅と差別化を明らかにしたマンションが市場に供給されている事が、講師の話を通じて見えてきたと思います。

一声に不動産・建設部会と言いながらも実は参加メンバーの得意・専門分野は多岐に渡っています。今回はマンションという一つのテーマに基づいて、普段から疑問に思っている事や、自分のテリトリーとの比較、業界で決して表に出てこない様な話など、質疑応答の時間をたっぷり使って有意義な情報交換ができたと思います。

プライムセントラルタワー（建築主・東京建物・丸紅）というビルも、10数年前の土地入札（名古屋市中区局実施）やリーマンショックを経てきた、不動産市場の歴史を思い出す話題の尽きない会場でした。

勉強会終了後は会場を変えて

懇親会を実施し、部会の結束をより強めることができました。来年も秋頃の開催を予定しています。

記・西山博基（大64）

東海陵水会計人会



さる令和元年12月19日（木）午後6時より、東海陵水会計会の下期例会が行われました。会場は、名古屋市中区金山の「イーオリエンタル・バンケット」でした。

今回も恒例の忘年会と併せ、研修会を開催しました。テーマは、名古屋の伝統産業である「名古屋仏壇」について。現在、愛知学院大学経営学部教授で学部長の林伸彦（大30）氏に講演して頂きました。名古屋仏壇の成

り立ち、特徴等についてカラー写真を添えたレジメでわかりやすく解説して頂きました。

風邪や怪我等で急遽欠席された会員もあり、総勢9名という少人数の例会となりましたが、研修後はゲストの名古屋支部長片岡嘉幸氏（大25）の乾杯のご発声で忘年会が始まりました。ゆったりとした会場でフランス料理のフルコースに会員のお酒の量も進み、和気藹々、歓談・旧交を深め、盛況のうちに例会を終了しました。

今回は夏の例会になります。が、新たな研修テーマを企画し、多くの会員が参加されることを期待しています。

記：山内佳紀（大23）

陵水帆船会中部支部総会開催

令和2年1月18日（土）17時から、毎年恒例の陵水帆船会中部支部総会を名古屋駅前百楽にて開催しました。OB 23人と学生3人の合計26人、近年最大の人数が集まりました。最年長の84才から学生19才まで年齢差65才というつながりは、まるでおじいちゃんから孫までの3世代の大きな家族のようでした。



4年間の琵琶湖中心のヨット部生活は、それを経験した人にかかわらず非常に非常にストイックな学生生活でした。現役学生は今でも、戦国武将も通ったであろう彦根、大津間の水路を定期戦のたびに往復しております。ゆえに、OB同士の絆はとても強いです。会えば、つい最近まで学生生活をしていたような気持ちになるのです。また、学生たちは、今も、中部地区や関西地区の出身者が多く、就職先の相談や、どうしたら、勝てるのか？とチャンピオンシップや組織運営の話やOB達と熱心に対話していました。創部69年という時を経て、ヨットという競技を通してOBと学生が一緒に成長していこうという志は、脈々と繋がっています。

会のお開きは、2回生の土肥君によるヨット部のエールです。「見よ満々として」の斉唱で締めくくりました。お疲れ様でした。

記：内田 誠（大31）

陵水艇友会中部支部総会



2020年2月1日、ボート部OB/OGで構成される陵水艇友会では、11時30分より名古屋駅近くの中華／百楽にて中部支部総会を開催しました。当総会には、陵水艇友会本部より高田会長（大21）、緒方幹事長（大29）、兵藤副幹事長（大30）、関西支部より要幹事長（大31）、及びボート部現役3回生／堀田さん、岡本さんにご参加頂き、

総勢21名での総会となりました。

当総会では高田会長の挨拶後、加藤中部支部長（大26）からの支部活動報告、篠田コーチ（大31）からの活動報告、続いて現役からの活動報告をして頂き、最後は緒方幹事長の総括で総会を終了しました。

引き続き、12時30分より懇親会を行いました。その締めとし

記：岸 泰志（大30）

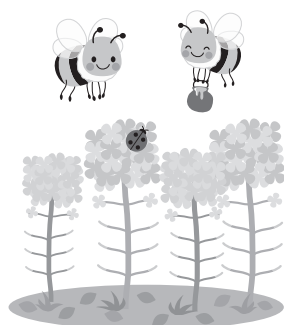
大25回新年会

さる2月11日（祝）12時に名鉄グランドホテル「瀬梅舫」に



て、大25回の新年会を開催した。今から8年前の平成24年に総会幹事を担当したメンバーが中心となり、毎年新年会を行っており、今年で7回目である。参加メンバーが減ることもなく、今回は例年より多い14名の参加であった。60歳で会社を退職した者は、5年目を迎える年であり、大半が第二の人生を迎える年代となってきた。

直近1年間の出来事報告では、毎年ユニークな報告がある。マンシオンに来る「蛾」の写真を毎日撮り、その生態を観察する。毎日14,000歩（雨の



日はショッピングセンターの中を歩く。JRの白地図を購入し、乗った路線を塗りつぶす。市長選挙に出馬要請される。犬の多頭飼いをする。年60回クラシックコンサートに行く。奈良公園で鹿せんべいを売ることを考える、等々である。人生100年時代とはいえ、男性の健康寿命は72歳ともいわれる中、どのように残された人生を楽しむかは人それぞれであり、試行錯誤をしているようである。

写真の旗は、支部総会でも掲示しているお馴染みの旗であり、同期の児玉氏が4年1度彦根で開催する全国同期会のために、20年ほど前に作成したものである。ちなみに本年9月20日彦根キャッスルホテルで、全国同期会が開催される。

記…片岡嘉幸(大25)

陵水会名古屋支部 卒業年次別 幹事名簿

卒業年次	氏名
高商21	杉浦 弘
大学2	鹿野 磯夫
4	近藤 勇雄
5	清水 有
6	伊與 正道
7	坂 清司
8	脇田 佳男
9	大西 敏隆
10	大野 真一
短大7	長谷川 信三
大学11	内藤 嘉美
12	水野 浩
13	倉坪 和久
14	石原 秀夫
15	村瀬 英己
15	吉田 稔
16	辻本 勲
17	築瀬 悠紀夫
18	山下 松志
19	山口 郁夫
20	板谷 憲治

卒業年次	氏名
大学20	鹿住 誠
21	山内 薫
22	今井田 昭三
23	小田切 純子
23	山内 佳紀
24	近藤 一菜
25	榎本 尚哉
25	片岡 嘉幸
25	米澤 正治
26	三宅 郁夫
27	伊藤 博樹
28	牧野 博和
29	荒木 俊雄
29	表野 宏和
30	落合 睦司
30	岸 泰志*
30	塚本 浩三
30	久田 寿一
31	内田 誠
31	堀 洋一
32	河辺 昭宏

卒業年次	氏名
大学32	船坂 宏樹
32	目時 義通
33	鈴木 俊彦
33	菱田 裕之
33	横井 隆幸
34	田中 直樹*
34	千喜良博*
34	丹羽 宏和
35	三輪 孝秀
35	山崎 博己*
36	樋口 偉久
36	吉橋 満
37	伊藤 智弘
38	伊藤 裕人
38	小田島 永
39	浅井 俊博
40	稲垣 明知
40	坂野 晃
41	山田 剛
42	長瀬 昌彦
43	小林 靖

卒業年次	氏名
大学45	水野 俊之
46	齊藤 正和
49	中澤 良次
50	中川 雄志
50	挽内 健児
53	稲山 大介
54	土屋 貴巨
54	肥田 茂之
57	土屋 敦史
58	今井 綾乃
58	田中 憲一
62	小野 翔
62	棚橋 紗夕
64	磯野 詩織
64	金井 信道
65	田中 圭史
65	堀井 弘明
66	三品 花菜

<参考>新任者*

陵水会名古屋支部 支部役員

役職名	氏名	卒業年次
顧問	吉田 宜正	大8回
顧問	村瀬 英己	大15回
支部長	片岡 嘉幸	大25回
副支部長	米澤 正治	大25回
副支部長	荒木 俊雄	大29回
幹事長	塚本 浩三	大30回
副幹事長	小田切 純子	大23回
副幹事長	榎本 尚哉	大25回
副幹事長	内田 誠	大31回
副幹事長	堀 洋一	大31回
副幹事長	目時 義通	大32回
副幹事長	横井 隆幸	大33回
副幹事長	齊藤 正和	大46回
副幹事長	中川 雄志	大50回
副幹事長	土屋 貴巨	大54回
副幹事長	肥田 茂之	大54回
副幹事長	土屋 敦史	大57回
会計幹事	表野 宏和	大29回
監事	山内 佳紀	大23回

陵水会名古屋支部 本部役員

役職名	氏名	卒業年次
副理事長	村瀬 英己	大15回
理事	小林 耕士	大20回
理事	片岡 嘉幸	大25回
代議員	長谷川 信三	短7回
代議員	倉坪 和久	大13回
代議員	奥谷 弘和	大14回
代議員	吉田 稔	大15回
代議員	山内 薫	大21回
代議員	山内 佳紀	大23回
代議員	米澤 正治	大25回
代議員	荒木 俊雄	大29回
代議員	表野 宏和	大29回
代議員	塚本 浩三	大30回
代議員	内田 誠	大31回
代議員	堀 洋一	大31回

陵水俳壇

自句自解

石橋政雄(大6)

介護所の講談に沸く春の興

有難いことに介護所には色々なボランティアの方々が来て下さる。先日は、元プロの講談師の方が持参の緋毛氈の上で、釈台を叩きつつ名調子を演じてくれた。久しぶりにスカットした気持ちになった。

伊與正道(大6)

雪しずる杉の大樹や初詣

古里を離れて六十二年。今でも幼き日の初詣は忘れられない。六時に起きて父親先頭に七人の子供が、山の上の鎮守へ雪の階段を昇る。右も左も杉大樹で、雪しづれの音がする。今年九月で八十六歳になる。生国福井の想い出は忘れられない。

久保 昭(大6)

春蘭や花芽草叢に紛れをり

植物園の道辺の土手に草叢に紛れて春蘭の花の芽が出ているのを見て句を詠みました。尚、春蘭は別名「ホクロ又ははじりばば」とも称します。

大島一彦(短7)

願わくは街を澄ませる春の水
暖冬と思っていたところ降っ

てわいた新型コロナウイルスによる肺炎騒動。争いの絶えない

世界が今こそ叡智を集めてウィルスを克服し、助け合う世に向かうことを願うばかりです。

倉坪和久(大13)

賀状来ずどうかしたかと友の声
年令がら友を喪くし始めて嘆いていたら、昨年末に自分が心筋梗塞で救急入院となつて賀状どころでなくなつた。そこでこの句になつた次第。申訳ないようになちよつとうれしいような…

青山政弘(大17)

庭先の薔に春の見え隠れ

一月の終わりがらから梅の薔が少しづつ捲れ色付き始めます。朝の散歩時に捲れ度合いを観察し春の訪れを楽しんでいます。

片岡嘉幸(大25)

父母の杖並ぶ玄関初日の出

田舎で二人暮らしをしている父母は、九十三歳と九十一歳の正月を迎えた。九十を超えてめっきり足腰の弱ってきている二人であるが、今年も元気に外出する二人であつて欲しいものである。

俳句へのお誘い

①俳句を始めませんか。

②言葉の遊びなのですが、日本人が昔から慣れ親しんだ文化です。

③俳句のメリット

(1)季節の移り変わりに関心が深まり、日々の生活に余裕ができます。

(2)旅行が楽しくなります。新しいことに関心が深まります。

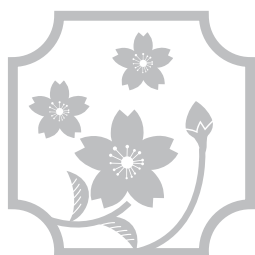
(3)長生きできます。女性が先生で、女性メンバーもいて、若返ります。

④句会

毎月第2土曜日13時から御器所の昭和区生涯学習センターで句会を行っています。

⑤参加申し込み

片岡嘉幸(大25)
電話 052-741-3583
メール yokataoka20028325@yahoo.co.jp



第81回名古屋水会ゴルフコンペ

2019年11月4日(祝): 東名古屋カントリークラブ 参加者: 16名

優勝	塩瀬和美(大22)	グロス 93	HD 16.8	ネット 76.2
2位	村瀬英己(大15)	グロス 106	HD 27.6	ネット 78.4
3位	木村芳夫(大08)	グロス 98	HD 19.2	ネット 78.8
4位	山下松志(大18)	グロス 103	HD 24.0	ネット 79.0
5位	牧野博和(大28)	グロス 101	HD 21.6	ネット 79.4

快晴の天気には恵まれましたが、スタートが30分遅れるなど、混雑で待たされることの多いコンペとなりました。途中から風が強くなり、斜面にピンが切られている難しさが加わり、悪戦苦闘する人が続出しました。

次々回 開催ご案内

第83回水会名古屋支部ゴルフコンペ

【日時】2020年11月23日(月・祝)

【会場】未定

平日開催と休日開始を続け、参加者を増やしたいと思います。

片岡嘉幸(大25)

予 告

2020年度 名古屋支部総会は【開催中止】と致します。

2021年度 名古屋支部総会

【日時】2021年6月26日(土)11時半より

【会場】HOTEL ルブラ王山 (以上予定)

〔原稿募集及びご意見を〕
皆様の原稿をお待ちしています。
※テーマ自由
編集担当 片岡嘉幸(大25)
FAX 052-741-3583
E-mail yokataoka20028325@yahoo.co.jp

全ての記事の全文は、水会
名古屋支部ホームページで
いただけます。

